



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第1916号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL (055) 976-6351 FAX 976-6352
例会場 静岡県三島市本町14-31 みしまプラザホテル
TEL (055) 972-2122
会長 渡辺 雅晃 幹事 黒田 一



広重版画より 三島 朝霧

第1979回例会

2013.5.23晴

司 会

三田明宏君

ロータリーソング

「それでこそロータリー」
指揮 前田博利君

会長挨拶

会長 渡邊雅晃君

道（魯迅語録より）

そもそも世の中に道なぞない、人が森に分け入りだんだんその数が増えるにつれ道になったのだ。

私はこの言葉に2つの意味が有るのではないか？と思った。1つには人は1人では生きてゆけない、だから大勢の人と一緒に歩くべし、ということ。しかし人と一緒に居るということは大変なことで自分を殺さなければならぬこともあるし、同調を余儀なくされることもある、ただその人たちから学ぶことも多いことを忘れてはならない。もう1つの考え方だが、1人で森に分け入った勇氣だ。自分が必要だったからそうしたのか？後の人達の為を考えてそうしたのか知る由もないが熊に出会うのか毒蛇に噛まれるのか覚悟の上で入ったのは圧巻としか言いようがない、いずれにしても人に先駆けて事を起こすのは勇氣ある決断が必要だ。道は生活には欠かすことのできない動脈で場合によっては今や人の命に関わることもある。

かつての中国には先見性もあり、国の行く末も思慮深く思い走らせたりした立派な詩人やら芸術家やらいっぱい居た、今や海のギャングになりはてた国を悲しんでいるかもしれませんね。・・・

“こんにちは、ようこそ”

ゲスト 大畑賀康さん(勝間田君・千葉君のゲスト)

出席報告

	出席総数	出席率	メ ー ク ッ プ	修 出 席 正 率
前々回	38/49	77.55%	43/49	87.76%
今回	41/51	80.39%	会員総数	53名

欠席者 石井(彰)君、亥角君、窪田君、佐野君、
鈴木(正)君、諏訪部(照)君、千葉君、登崎君、
橋本君、矢岸君

幹事報告

幹事 黒田 一君

- ① 6月6日(木)例会時に臨時総会を行いますので宜しくお願い致します。ご案内をFAXにて、送付致します。ご確認して下さい。
- ② 小野正博会員の転任に伴う、後任の大畑賀康(よしやす)さんが、本日ゲストとして例会に出席して下さいましたので、5月30日にもゲストとして例会に出席をして頂き、6月6日に入会式を行います。尚、会員の皆様には、「入会諾否のお伺い」を郵送させていただきますので宜しくお願い致します。
- ③ 本日より例会時の出欠席の確認を行いますので、ご協力をお願い致します。5月30日(木)及び6月6日(木)例会を行います。今後2週間前から3週間前出欠席をお取りいたしますので宜しくお願い致します。

2012～2013年度
国際ロータリー会長
田中 作次

奉仕を通じて平和を

おめでとう

結婚記念日 原君

スマイルボックス

- ◆諏訪部(敏)君、5月14日宮中にて旭日双光章を受章してきました。これまでの76年間の人生でいろいろな人に支援をして戴いてきましたが、特に西ロータリークラブの皆さんには大変お世話になりました。皆さんを背に天皇陛下に拝謁して参りました。ありがとうございました。
- ◆ゴルフ同好会、5月19日(日)大熱海国際ゴルフクラブにてゴルフコンペを行いました。優勝柳田さん・準優勝平出さん・3位鈴木正二さんでした。次回は6月9日(日)に天城日活ゴルフクラブで行います。

卓 話

歯科医療は「生きる力を支える生活の医療」

鈴木郁夫君

「歯科保健・歯科医療とは、口腔の機能を維持・増進させることによって、食や会話という人間の生きる力の根幹を支える生活の医療である」

歯科医療をこう定義したのは、現日本歯科医師会会長で、以前私が県の歯科医師会にいたときの会長であった大久保満男先生です。

歯科医療とは生きる力を支える生活の医療である。

先週の日経新聞の夕刊の1面に「医科、歯科連携を促す。効率治療へ厚労省、全国でモデル事業」という見出しで、歯科と医科の連携に関する記事が載っていました。

また、この記事の後ろの方には「がん治療で連携の実績のある静岡県など一部の地域を除き、医科と歯科の連携は進んでこなかった。」とありました。ここで静岡県という言葉が出てきました。

なぜ静岡県という言葉が出てきたかといいますと、実はこの記事にあります医科と歯科の連携事業というのはそもそも全国に先駆けて静岡県から初めて、始まったものです。

この事業は、静岡県立がんセンター、静岡県歯科医師会、地元の歯科医師会特に県東部の歯科医師会が中心となり、

口腔ケアグッズのサンスターが協賛して、がんの外科治療や抗がん剤治療、放射線治療などのがん治療を予定している患者さんを対象に、術前、術中、術後に口腔ケアを行って、ガン治療後に伴う口腔合併症や感染症の予防と軽減のために、医療連携を行うというものです。

治療を始める前に地元の連携歯科医院で、口腔清掃指導、歯石除去や歯周病治療やむし歯治療を事前に済ませ、入院中はがんセンターの歯科口腔外科が口腔ケアを行う、同時に患者さん自身が行うセルフケアをサポートしながら、退院してからもかかりつけの連携歯科医院に戻ってケアを継続する。

このような医科、歯科の連携による口腔ケアのネットワークを構築することが目的です。

この事業は、現在静岡県立がんセンターの歯科口腔外科部長であります大田洋二郎先生が考えて始めたことです。

抗がん剤は、がん細胞を破壊すると同時に正常細胞にもダメージを与えます、その結果口内炎ができてきます。

また免疫力を低下させるために、口内炎の傷口などから細菌やウイルスが入り、感染しやすくなります。

頭頸部がんへの放射線療法は、口腔粘膜や唾液腺が含まれるので口内炎や口腔乾燥などの唾液腺障害がおこります。また味覚の異常や飲み込みがうまくできなくなったり食事や会話に影響が出たりまたむし歯が多発し感染に弱くなります。

2002年の開院当初から、がんセンター内で歯科医師、歯科衛生士、看護師からなる口腔ケアの専門のチームを作りがん治療を行う患者さんに口腔ケアを実施しました。これは全国でも初めての取り組みだったかと思います。この結果、口腔ケアを行うことによって、がん手術による合併症の軽減、放射線、化学療法後の口内炎の疼痛緩和、ホスピス内の緩和医療患者の口腔乾燥症状の緩和、がん治療中の患者が病気に立ち向かう前向きなファイトングスピリットを発現させるというメンタル面の効果が確認できたそうです。

また口腔ケアを行うことががん治療後の合併症などを減少させることを学術的に裏付けるために2003年より厚生労働省の助成を受け研究を行って、口腔ケアを行うと術後の合併症の発生率のリスクを7分の1にすることができたという研究成果を上げました。

また2010年には日本歯科医師会が国立がん研究センターと連携し首都圏の1都4県で同様な事業が始まっています。

このように現在では、がん患者の治療後の合併症を予防、軽減するための医科歯科連携の口腔ケアのネットワークが静岡県から全国に広がりつつあります。

生活の質を高め「生きる力を支える生活の医療」が広がっています。

(週報担当：佐々木雅浩)